

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 5月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	0793240011		
法人名	社会福祉法人おおくま福寿会		
事業所名	グループホーム やすらぎの里		
所在地	福島県双葉郡大熊町夫沢字南台152番地の2 (電話) 0240-32-3822		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利七社宮111		
訪問調査日	H20.4.21	評価確定日	H20.5.29

【情報提供票より】(20年 3月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤	人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,650 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(3月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 81 歳	最低 72 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 玉井医院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、国道から東へ入りホームから太平洋が一望できる静かな場所に位置している。建物は出来てまもなく内外ともとてもきれいだ。また、管理者をはじめスタッフ一同がとても明るく、仕事に対して意欲的な姿勢を感じた。その気持ちが利用者にも伝わりホーム内の雰囲気も明るく利用者・スタッフとの「笑い」「会話」につながり、和やかな生活環境を作り出している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 外部4) 運営推進会議の開催が昨年度(2回開催)よりは一回多く開催されているが、二ヶ月に一度の会議ができるよう年間計画を作成し取り組んで欲しい。同じく介護計画においても、現状に即した計画の見直し・記録が反映されるよう工夫してほしい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 外部4) 管理者をはじめ全職員で評価を行う意味を理解し、自己評価に取り組んでいる。今後も、職員全体で自己評価に取り組み、自分たちの日頃の姿の再点検としてもらいたい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 外部4, 5) 主に利用者の状況と利用料金などについて報告があり、質問がだされたことについて話し合っている。行政・地域の福祉関係者も入り、地域行事への参加や意見などを取り入れ運営に役立てている。今後は、年間計画のもと定期的に取り組んでほしい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 外部7, 8) 広報誌・電話などを利用して、現在の状況を随時家族に報告するとともに、家族に対し意見・悩みへの対応をしている。今後も、受付に設置してある意見箱をおおいに利用していただき家族からの意見に対して応えていこうという姿勢がうかがえる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 外部3) 7月の町民体育祭・9月の敬老会・11月の地域ふるさと祭りなどにも積極的に参加している。また、地域の理容組合の方々が定期的に散髪のボランティアに来ており、地域と連携がうまくいっている。

2. 評価結果(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者に安心と潤いのある生活を提供するために、事業所独自の理念をつくり上げている。また、いつでも目に見えるよう事務所にも理念を掲示してある。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングの時間や申し送り時を利用し、理念の実現に日々取り組んでいる。また、職員各自がいつでも確認できるよう名札の中に理念を記載したカードを入れている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	9月の敬老会・7月の町民体育祭・11月の地域ふるさと祭りなどに積極的に参加している。また、地元の理容組合の方々が定期的に散髪ボランティアに来ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に対しての職員への説明・理解はされている。しかし、前回の評価結果を受けての具体的な改善がされていない。	○	前回の評価を受けた改善事項に職員全体で取り組んで欲しい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年度は運営推進会議を2回実施している。利用状況の説明するとともに利用料などについての意見が出されている。しかし2ヶ月に1回の運営推進会議が開催されていない。	○	会議の年間計画を作成し、事前に関係機関・委員の方に周知したうえで2ヶ月に1回開催してほしい。また、家族の参加も輪番制にし、家族からの意見集約に取り組んで欲しい。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当者より利用者の現在の状況を家族へ広報誌で定期的(隔月)に知らせている。また、金銭預出納簿については、家族の求めに応じていつでも開示している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入り口には利用者家族から意見や苦情を出しやすいよう意見箱が設置されている。意見や苦情に関しては、事業所運営法人が設置している苦情解決委員会に報告し、協議結果をホームの運営に反映するしくみになっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動に伴う混乱をさけるために利用者に対して主・副担当者制を取り入れる等の工夫をしている。その結果利用者に対しての継続した支援と責任が明確になってきている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育については、最低3ヶ月間個人ごとに指導助言にあたる等のOJT(仕事を通じた育成・指導)に取り組んでいる。全ての職員を育成するため、外部研修や内部研修の機会を設けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会(浜北地区)に加盟しており、他事業者との意見交換をしたり、自分たちの仕事の再確認をし、日々質の向上につなげている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	館内には季節に応じて手芸・工芸等で作成したものを飾り付けている。生活歴を参考に畑仕事の取り入れている。毎日の買いものを交代で行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	主・副担当者が中心になり本人の意見や要望の把握に努めている。「家に帰りたい。」「家族と会いたい。」という要望に対し、自宅まで同行したり、家族と連絡を取り合ったりしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員を中心に担当者からの意見・家族からの思いなどを反映し利用者に対してチーム全体で介護計画の作成に取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の日々の変化については十分に把握されている。また、家族への説明や連絡などもしている。しかし、現状に即した介護計画の見直し、効果などの評価されていない。	○	把握した利用者の日々の変化をもとに、現状に即した介護計画の見直しを行って欲しい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人・家族の希望を基本としている。契約時に通院等については原則的に家族に行ってもらうように説明しているが、都合が悪い場合はその都度相談に応じている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期については利用契約時に説明し、またその後の状態の変化があった時なども家族及びかかりつけ医と連携をとり、方針と今後の支援について話し合っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する職員の声かけも相手の気持ちを考えさりげなく対応している。書類は鍵付のケースに管理し、広報誌の写真掲載についても本人・家族からの了解を得ている等注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	国語のドリルを行う利用者、買い物を行う利用者など一人ひとりの希望を優先し、利用者の健康状態やペースを考慮した支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に採ってきたわらびの料理を出すなど利用者と職員が明るい雰囲気の中で食事をしている。しかし、食事の準備や片付けに利用者が参加している場面が少ない。	○	利用者の心身の状態に応じて食事前後の配膳やテーブル拭きなど小さなことでもよいので利用者の役割を考えて欲しい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな入浴日・時間は決まっており、利用者の気持ちを尊重した支援をしている。また、夏場には毎日シャワー浴を実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	和裁・手芸・畑仕事など本人の意向に添った役割、楽しみをみつけ支援している。ホールには利用者が作ったタペストリーが飾ってある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	散歩・外食なども日常計画的に取り入れ、積極的に外へ出かけるよう支援している。また、毎日のおやつや買い物にも交代で利用者が参加している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけずに自由な生活をしている。利用者が外出を希望する場合は、状況を確認し、職員が同行したり、電話により家族の声を聞いて安心できるようにするなどの必要な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体の避難訓練は実施しているが、ホーム独自の避難訓練は行われていない。また、ホームの災害対策がマニュアル化されていない。	○	法人全体の避難訓練とは別に、ホーム独自にも避難訓練を定期的に行って欲しい。また、ホームの利用者の特性に応じた災害対策マニュアルを作成して欲しい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ごとに食事や水分の摂取状況を毎日記録し健康状態を把握している。献立なども管理栄養士に確認をしてもらい適宜助言を頂いている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節の花やタペストリーを飾り、季節を感じさせる空間になっている。また、時折聞こえてくる鳥のさえずりがとても心にひびき癒される環境でもある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には小物類を利用者が工夫して置いている。また、家族の写真・似顔絵なども部屋に飾ってあり、安心して過ごせるよう配慮している。		

 は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム やすらぎの里

記入担当者名 藤原 輝美

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目№を記入してから内容を記入してください。